

水 土 里 レ ポ ー ト

投稿月日	2017/9/16
タイトル	「田んぼの学校」那須苗取り田植唄保存会による稲刈り・脱穀
水土里レポーター名	那須野ヶ原土地改良区連合 参事 星野恵美子

平成29年9月16日（土）秋晴れの中、保存会会員、地元農家の指導者、会員親子等、総勢55名により、「田んぼの学校」の稲刈り及び脱穀を行いました。

4月に泥まみれになりながらも植えた苗は、金色の稲穂がたわわに実りその重さで垂れ下がるまでに成長しました。昨年は異常な水不足に悩まされ、今年は8月の日照不足が懸念され、それでも何とか収穫するまでに至りました。毎年毎年同じ活動を行っていても、その年の天候、水の加減や温度等、多種多様な条件により左右されるのが農業であり、この活動に何年も関わっていても、毎年初心者の気持ちで取り組んでいます。

さて、いよいよ収穫です。地元農家の指導者の方より稲刈りの指導をしていただき、恐る恐る稲刈り鎌を受取り、作業を始めました。最初はぎこちない手つきでの作業でしたが、慣れてくると刈り取る爽快感が楽しくて予定よりかなり広範囲を刈っていました。次は、脱穀です。一掴みに束ねた稲穂を、「足踏み脱穀機」という手作業だった時代より使用されていた脱穀機に入れ、籾と穂に分けます。この足踏みがかなりの労力が必要で、大人でも音を上げてしまうほどですが、皆で交代しながら作業を行いました。次に脱穀により分けた籾を、「とうみ」という農具で不要な稲わらを飛ばし、籾だけにします。この作業は子供達に人気で、効率よく順番に代わりながら作業していました。

真剣に取り組んでいたのも、あっという間に作業が終了し、子供達は美味しそうに「こじはん」のおにぎりを食べていました。

このような手作業を行うことで、お米の有り難みや、八十八手の手間がかかる所以を体験出来ることは、子供にとって貴重な食育の場です。今後も、一人でも多くの子供が体験できるよう支援を続けて行きます



稲刈りの様子



足踏み脱穀機



とうみ